

第21回金沢大学法学公開講座 活力ある高齢化社会に向けて

TOWARD A VITAL AGING SOCIETY

目次：

各講義の紹介	2-
	3
アクセス・マップ	4
バス時刻表	5-
	6

内容紹介

【講座の趣旨】

平成18年度の法学公開講座は、『活力ある高齢化社会に向けて』というテーマの下に、高齢化社会を活力をもって生きてゆくための総合的な視座を獲得することを目的としています。

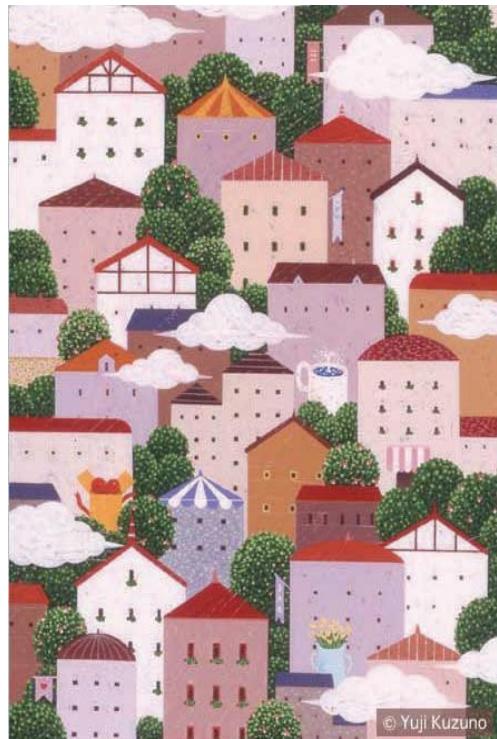
そのため、高齢化社会における公=私の関係（国・自治体による支援体制と、自律的な私的活動）、公的生活への個人の参加、またそのための前提条件となる「生活関係の安定」について、順を追って分かりやすく解説します。

【各講義の内容】

第1回「高齢化社会の展望と課題」では総論的・導入的な考察と問題提起を行います。

これを踏まえて、第2回「高齢化社会の『さえあい』」では、日々の生活を主体的に形成してゆくための方策を、第3回「高齢化社会における『街づくり』」では暮らしやすい街を市民が創っていくための方策を、それぞれ具体的な素材を用いて解説します。

しかし、このような主体的で自律的な活動を



行うことができるためには、その前に、私的生活の安寧が確保されていることが大切です。第4回「成年後見制度の現状と課題」、第5回「医療と年金」では、そのための現実的な方策について、分かりやすく解説します。

日時・会場など

- 日時
平成18年
6月3日～7月15日
毎週土曜日(全5回)
13:30～15:30
- 受講料
5回分で3,000円(高校生
以下は2,000円)
- 会場(申込・問い合わせ先)
金沢大学大学教育開放
センター
〒920-1192
金沢市角間町
TEL (076)264-5272
Fax (076)234-4045

担当教員・テーマ

第1回 6月3日(土)

高齢化社会の展望と課題

高橋 涼子 教授

第4回 7月8日(土)

成年後見制度の現状と課題

東 巍 教授

第2回 6月17日(土)

高齢化社会の『さえあい』

眞鍋 知子 助教授

第5回 7月15日(土)

医療と年金

井上 英夫 教授

第3回 6月24日(土)

高齢化社会における『街づくり』

米田 雅宏 助教授

第1回 高齢化社会の展望と課題—新たな高齢者像へ—

人口の年齢構成から言えば日本は1970年に「高齢化社会」に突入しました。それから三十数年、高齢化は急速に進行し、今や「高齢社会」の段階にあると言われ、年金や介護の問題、少子化とあいまって「社会や地域の活力が停滞する（した）」などと危機感が高まっています。長寿の享受は人間の永年の夢でしたが、夢を達成してみたら、夢見たのとはかなり違う「現実」が待っていた、というわけでしょうか。

しかしちょっと待ってください。
そもそも「夢」を見ていた時代と現

代とでは、良くも悪くも社会のしくみや医療をはじめ人の生活を支える技術が全く違います。昔と今を単純なイメージで比較していても的確な対策に結びつきません。

第1回では、人口の長期的な変化の資料を使ったり、高齢者の捉え方の変化をたどったりしながら、現状の「犯人探し」をするのではなく、今を冷静に分析し、できることやすべきことを整理して、第2回以降の具体的テーマへの序論としたいと思います。

(高橋 涼子 教授)



第2回 高齢化社会の『ささえあい』—暮らしの主体的形成にむけて—

「さびしい人は早く死ぬ」

みなさんはこんな言説を聞いたことはありませんか。「まさか！」と思うかもしれませんのが、ある研究データからはたしかにそう読み取れる結果が出ています。この研究が「さびしい人」と考えるのは、まわりに親しい家族や親族、友人などがない人のことです。

実際に、私たちはこのような身近な人びとから、情緒的あるいは物質的なさまざまな支援をもらって暮らしています。そのような支援の関係を「サポート・ネットワーク」とし

て捉える研究があります。ある人がもつサポート・ネットワークの量や質が、その人にどのような影響を与えるのかについて調べる研究は、とくに高齢者の健康の問題と結びつけられて研究されてきました。

この回では、暮らしのなかの人びと同士の「ささえあい」であるサポート・ネットワーク研究の成果をご紹介しながら、高齢者の自立的な生活の条件を考えてみたいと思います。

(眞鍋 知子 助教授)



第3回 高齢化社会における『街づくり』—『コンパクト・シティ』を題材にして—

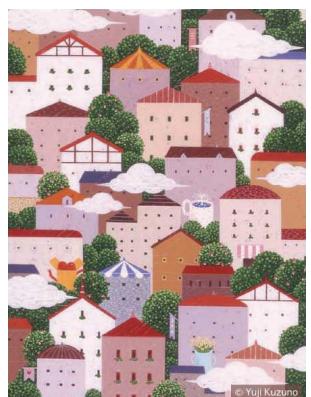
高齢者の割合が相対的に増える社会では、街づくりも高齢者に対応したものとする必要があります。これまでの街づくりは、急速な車社会の進展を背景に、大型商店や病院、公共施設など、日常生活に不可欠な施設を郊外に集め、市街地の範囲を拡大させるというものでした。

しかし、車を持たない多くの高齢者にとって、街の規模が広がりすぎることは決して望ましいことではありません。これからの中高齢化社会に求められるのは、基本的な生活が徒歩圏内ですませられること、つまり、コンパクトな街づくりです。

もっとも他方で、街づくりは、伝統・文化・地域経済等、複数の要素を相互に考慮し合うことによって行われるものもあります。空間的な視点だけでなく、多様な価値観を街づくり政策に反映させる仕組みも当然考えておかなければなりません。

この回では、最近新聞などで注目されつつある「コンパクト・シティ」構想を題材にしながら、高齢化社会のあるべき街の姿と、その実現方法について、考えてみたいと思います。

(米田 雅宏 助教授)



第4回 成年後見制度の現状と課題—高齢者の財産を守るために—

昨今、認知症の方が、悪徳商法に狙われて、全財産を奪われる事件が新聞を賑わせています。このような判断能力の不十分な方を保護し、支援するため、平成12年4月に法が整備され、施行されました。これが成年後見制度です。

そこで、この制度のあらましと問題点を取り上げ、高齢化社会を活力をもって生き抜いていくためのよすがにしていただきたいというのが、本講の目的です。

このように重要な意義をもっている成年後見制度ですが、しかしここ一般によく知られているとは言えない状況にあります。たとえば、

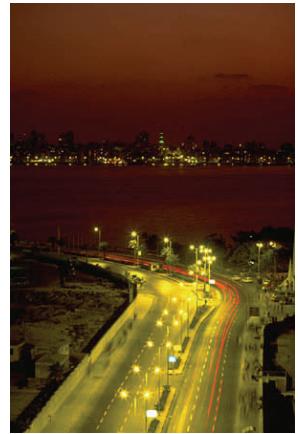
(1)認知症になったとき、悪徳商法から身を守るためにには、この制度をどのように利用すればよいのでしょうか。

(2)信頼して財産の管理を托した後見人が不正を働くないように、きちんと監視が行われる制度になっているのでしょうか。

(3)この制度において、自己決定権の尊重と本人保護の理念とは、どのように調整されているのでしょうか。

…本講では、このような具体的な問題をとりあげて、成年後見制度について分かりやすく解説します。

(東 嶽 教授)



第5回 医療と年金—転ばぬ先の杖—

人口の高齢化は、全人類の挑戦すべき課題の一つです。国連は、高齢者・高齢化観の転換と高齢者への人権の保障こそ、問題解決の鍵だと考えています（井上『高齢化への人類の挑戦』萌文社参照）。

もちろん高齢化は個人にとっても重要なテーマとなっています。とくに日本では、少子・高齢社会とセットで語られるように、こどもから高齢者まですべての人にとってその人生設計を考えるよう迫る事態となっています。

第5回目は、まず、高齢期の生活にとってとりわけ重要な医療・年金を中心

に人々の生活保障のための社会保障や社会福祉制度について考えてみましょう。次に、家族や地域社会さらには日本にとっての高齢化の意味を考えます。

そして、最後に、視野を広げて地球規模での高齢化について一緒に考えましょう。

(井上英夫 教授)



【金沢大学アクセス・マップ】

Page 4



【金沢駅からキャンパスまでのアクセス】(北陸鉄道バスご利用の場合 ⇒時刻表は次頁以下にあります。)

角間キャンパス(バス停:金沢大学中央または金沢大学)まで

金沢駅東口3番乗り場発、91・93・94・97金沢大学行き(兼六園下経由)34~37分 片道350円



